

地域とともにある学校づくりをめざして

I 研究の内容

1 研究の方法

(1) 研究の柱

- ・学校と保護者，地域との関わり方・提携の方策について
- ・学校・子どもたちが，地域の人々や保護者とのつながりを生み出す実践
- ・情報の共有や発信，研究成果の共有

(2) 部員は各校の実践を報告し，それについて情報の交換・協議する。

常任講師の先生方に，常時ご指導・ご助言をいただく。

(3) 保護者・地域との提携について，授業実践を通し研究を深める。

2 実践発表と授業実践の紹介

[実践発表…各校での保護者・地域住民と提携した教育活動や行事の実践]

(1) 日下部小学校

- ・学校と地域・保護者との関わり方・連携の方策について
- ・コミュニティースクールに向けて

(2) 塩山南小学校

- ・保護者地域住民と提携したPTA活動について
- ・学校と行政が連携した取り組みについて

(3) 塩山北小学校

- ・保護者・地域と連携した土曜学級・ふるさと学習について

(4) 岩手小学校

- ・地域と連携した学校行事や児童会活動について（岩手小学校太鼓、世代間交流事業）

(5) 大和小学校

- ・地域に根差した学習成果発表会について

(6) 井尻小学校

- ・保護者や地域の協力を得ながら進める学校行事について
- ・食育ノートの活用と保護者と連携した家庭科の授業実践について

(7) 菱山小学校

- ・単元構想案をもとにした総合的な学習の時間の実践について

[授業実践の紹介] …今年度は全体での授業研究を行うことができなかつたため

(1) 小5 総合的な学習の時間

「くふうしよう おいしい食事～『お弁当をつくる日』に向けて」

那須 美佳 先生 (井尻小)

甲州市「食育ティーチャーズノート」の指導案を参考に、児童用「わたしたちの食育ノート」を使ったお弁当作りに挑戦した授業実践である。全校で取り組む「お弁当の日」に向けて、保護者が児童の考えた計画にアドバイスをするという形で献立作りに「参加」してもらうことで保護者と学校が同じ方向を向いて取り組むことができた。児童の満足感だけでなく、学校や保護者にもメリットのある活動となることが、活動を継続することにつながり、今後の他の連携の場面でも生きてくる。教育課程に根差した持続可能な実践であり、多くのことを学ぶことができた。

II 成果と課題

1 成果として

- 各学校の実践発表を行った。各校における特色ある様々な連携について情報交換することができ、自校の活動の参考になった。その中で、各地域が抱える課題について明らかにしながら、前向きに考えていくことの重要性について学び合うことができた。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、例年と違った研究となったが、コロナ禍における保護者、地域住民との提携の在り方について情報交換をし、今年度だからこそできる価値ある研究となった。

2 課題として

- 地域や学校の特色を生かした実践だけでなく、地域や学校の課題にも触れながら学校と地域をつなぐ実践を行う必要がある。
- 持続可能な学校にしていくためには、カリキュラムマネジメントの視点を持ち、教育課程に位置付いた内容の実践を行うことが必要である。そういった実践をおこなうことが、教員の多忙化解消にもつながるであろう。
- 各校で発表された様々な教科外活動での実践や授業研究で学んだことをいかし、さらに効果的な教育方法を考えて研究を行っていきたい。

III 成果物

- 各校の実践レポート

(部長 武藤 有希)